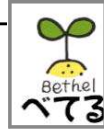


ココねっ♡と  
(こころネットワーク福山)



講演会の  
お知らせ

「べてるの家」が  
福山にくるでえ～

ついに  
4回目

市民のための  
精神保健福祉講演会2012

## テーマ：当事者研究の会の立ち上げ方 —福山でレッツ！当事者研究—

講師：向谷地 生良（むかいやち いくよし）さん（北海道医療大学）  
池松 麻穂（いけまつ まほ）さん（べてるの家PSW）  
べてるの家の当事者（2名）  
「べてるの家」のプロフィール（ウラ面をご覧ください）

日時：2012（平成24）年2月26日（日曜日）12:30～16:00  
会場：イコール福山（男女共同参画センター） [福山ロッツ地下2階]  
主催：ココねっと（こころネットワーク福山）  
協賛：NPO法人びいあらいぶ，就労継続支援B型 遊心工房  
参加費：500円《定員150人：参加チケットが必要です》  
※参加チケットは下記の「問い合わせ先」にご連絡ください。

### ※注

駐車場はありますが有料  
です。公共交通機関をご  
利用ください。

当事者研究とは、精神障害を持つ当事者が自分自身のことを研究するという。どうにもならない自分を、他人事のように考えてみる。すると、なぜだか元気になってくる、不思議な研究。だから合い言葉は、「自分自身で、共に」。そして、「無反省でいこう！」

2006年、2008年、2010年に開催した「べてるの家」が福山にくるでえ～講演会あれから……2年……「べてるの家」が今年も福山にくるでえ～（4回目だよ）。今回は、「当事者研究」の会を立ち上げるにはどうすればよいのかをテーマにします。福山でレッツ！当事者研究。

問い合わせ先：長崎（ココねっと代表世話人）080-4264-0994  
できるだけE-mailでお申込ください ⇒kaz-n@socialwork-jp.com  
NPO法人びいあらいぶ（久次米くじめ）084-928-4647  
遊心工房 084-921-2322

## 「べてるの家」のプロフィール

### ■ べてるの家とは



べてるの家は、1984年に設立された北海道浦河町にある精神障害等をかかえた当事者の地域活動拠点です。社会福祉法人浦河べてるの家、有限会社福祉 ショップべてるなどの活動があり、総体として「べてる」と呼ばれています。

生活共同体、働く場としての共同体、ケアの共同体という3つの性格を持っていて、100名以上の当事者が地域で暮らしています。

べてるの家は1978年に回復者クラブどんぐりの会の有志メンバー数名が浦河教会の旧会堂を拠点として活動をはじめたのがはじまりです。

1983年、浦河日赤病院の精神科を退院した早坂潔さんをはじめとする精神障がいを経験した回復者数名が、浦河教会の片隅で昆布の袋詰めの下請け作業をはじめ、1984年に当時浦河教会の牧師だった宮島利光氏から、「べてるの家」と命名されました。現在では、精神障がいばかりではなく、様々な障がいを持った当事者が活動に参加しています。

地域のために、日高昆布を全国に売ろう！」

べてるの家の歩みは、様々な悪条件を好条件とし活かしてきた歴史から生まれたものです。社会的な支援体制の乏しさや地域経済の弱体化が、精神障がいを抱えながら生きようとする当事者自身の生きづらさと重なり合ったとき、「地域のために、日高昆布を全国に売ろう」という起業の動機につながりました。1993年に有限会社を立ち上げて以降、

### ■ 浦河町とは

北海道の東南、襟裳岬にほど近い人口1万4千人の町です。スローガンは「丘と海とまきば」。サラブレッドや日高昆布で有名な町です。



### ■ べてるの家の理念

- ・ 三度の飯よりミーティング
- ・ 安心してサボれる職場づくり
- ・ 自分でつけよう自分の病気
- ・ 手を動かすより口を動かせ
- ・ 偏見差別大歓迎
- ・ 幻聴から幻聴さんへ
- ・ 場の力を信じる
- ・ 弱さを絆に
- ・ べてるに染まれば商売繁盛
- ・ 弱さの情報公開
- ・ 公私混同大歓迎
- ・ べてるに来れば病気になる
- ・ 利益のないところを大切に
- ・ 勝手に治すな自分の病気
- ・ そのまんまがいいみたい
- ・ 昇る人生から降りる人生へ
- ・ 苦労を取り戻す
- ・ それで順調

〔注：この紹介文は「べてるの家」HPより転記しました。URL：<http://bethel-net.jp/betheltoha.html>〕